

ナラティブマクロ構造 評価指標の開発

大原重洋^{1,2)}

¹⁾ 聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部言語聴覚学科

²⁾ 豊田市こども発達センターなのはな(旧難聴幼児通園施設)

※本研究の一部は、第68回日本音声言語医学会総会・学術講演会にて口演発表した。

研究目的

典型発達段階にある幼児・学童における絵
図版のナラティブ産生について、

1. マクロ、ミクロの両構造の発達順序性を明らかにする。
2. 聴覚障害事例の評価法としての参照可能性を検討する。

方法:ナラティブ採取法

1.内容再生法

課題を分ける①②

図版(A)を呈示して読み聞かせ、内容質問(23問)により理解を確認後、口頭での再生(復唱)を求めた。

2.自発産生法

図版(B)を呈示して、口頭での自発産生を求めた。

内容再生法⇒自発産生法の順で実施した。
対象児が産生している間、図版を呈示した。

物語絵図版B: 自発産生法

①開始:危機発生



②展開1:事件回想



③展開2:事件解決回想



④結末:危機解決



検査者による読み聞かせなし。
基準ストーリー(大原・廣田, 2022): 356語。

7

小児のナラティブ評価の課題

1. 話し言葉を用いる聴覚障害児では、同世代の聴児と比して、ミクロ的な語彙・統語からマクロ的な内容統括段階までナラティブ産生が遅滞し、発達に個人差が大きい(Crosson et al., 2001; Huttunen et al., 2008; Worsfold et al., 2010; Boons et al., 2013)。
2. マクロ、ミクロの両構造がどのように発達し、高次のナラティブに至るのか、発達順序性は不明であり、発達評価と各年齢段階での指導論理が確立されていない(Oohara & Hirota., 2022)。
3. ナラティブ評価により、聴覚障害児の国語・日本語教育について、具体的で効果的な指導・支援が可能となるが、国内では評価法の開発に乏しく、各臨床家の実践経験に委ねられている。

2

対象

典型発達段階にある幼児・学童98名

学年	M	F	合計	月齢	SD
年長	6	10	16	72.8	2.4
2年生	27	6	33	92.3	4.8
3年生	10	11	21	109.7	4.6
4年生	4	9	13	122.3	3.4
5/6年生	7	8	15	139.6	6
計	54	44	98		

※参加者102名から、課題に応じなかった2名、緘黙2名を除いた。

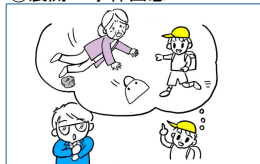
4

物語絵図版A: 内容再生法

①開始:危機発生



②展開1:事件回想



③展開2:事件解決回想



④結末:危機解決



検査者による読み聞かせあり。
基準ストーリー(大原・廣田, 2022): 自立語付属語388語。

6

ナラティブの評価法

マクロ構造

物語文法(Stein & Glenn, 1979)を一部改変(大原・廣田, 2022)

問題解決型ストーリーの構成要素を評価

構成要素の発話による評価

場面・登場人物	6点	計24点 %に換算
始まりの出来事(危機発生)	4点	
行為(解決の試み)	8点	
結末(物語の締めくくり)	6点	

※TNL-2(Gillam & Pearson, 2017)に基づき、評価項目を設定した。

ミクロ構造

ナラティブを構成する自立語・付属語の総数を計上(Kh-coder 3; 樋口, 2020)。

8

図版A; 小学4年生女児(10歳6カ月)

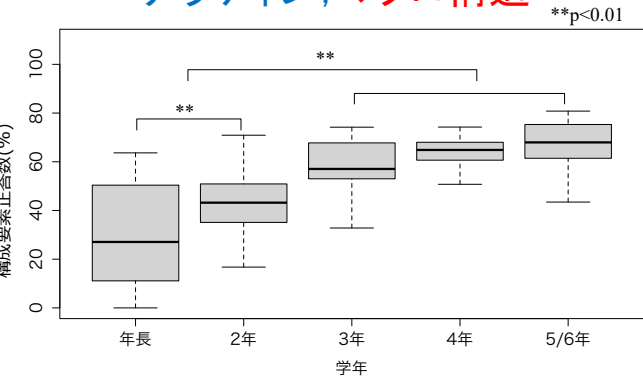
たかしくんは朝学校に着くと、先生は怒っていました。
カンカンになって先生は言いました。
「どうして遅れたんだ。理由を言いなさい。」
「朝、道で大きな石に躓いて、おばあさんが転んでいんです。」
大きな荷物を運んで歩くのも大変そうだったので、僕が交番に連れてってあげました。
それで、交番のお巡りさんに、このまま病院に連れてっていきたくて頼みました。
お巡りさんは、「よくやったね。君は偉い子だ」と褒めてくれました。
「ここからは警察が、お巡りさんがやるから心配しないでもう早く学校に行きなさい。」
「そういうことで遅刻したんです。」
「そうだったのか。なら、早く席に着きなさい。誤解をしていて、ごめんなさい。」
「すまなかったね。ごめんね。」
たかしくんは席に着いて筆記用具とノートを取り出して授業の準備を始めました。
先生の誤解が解けて良かったですね。

マクロ評価; 79.2% ミクロ評価(自立語付属語数);196語

結果の解析

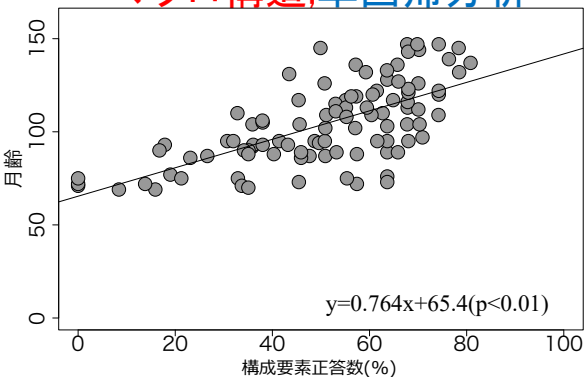
- 1. ①内容理解、②マクロ構造、③ミクロ構造について、年齢群間で比較した(一元配置分散分析)。
※マクロ構造は、図版ABを合算した平均、ミクロ構造は、図版ABの合計。
- 2. 生活年齢(月齢)とマクロ構造の発達変化について、関連を検討した(単回帰分析)。

ナラティブ; マクロ構造



年長児は発達に個人差が大きく、29±22.7%と遅滞し、2年44±14.1%、3年に57.4±10.8%に順次改善し(F(4,93)=20.1, p<0.01)、発達のプラトーに達し、4年64.2±6.9%、5/6年66.8±10.7%に至った。

マクロ構造; 単回帰分析



典型発達児の月齢は、マクロ構造の発達と正の相関を認め(r=.66; p<0.01, 95% CI=[0.53, 0.76])、マクロ構造(x)に基づいてナラティブ発達年齢(y)として参照できることを確認した(y=0.76x+65.4, p<0.01, 自由度調整済 R²=0.43)。

図版A; 小学3年生男児(8歳8カ月)

まず、男の子が、学校に遅刻しました。

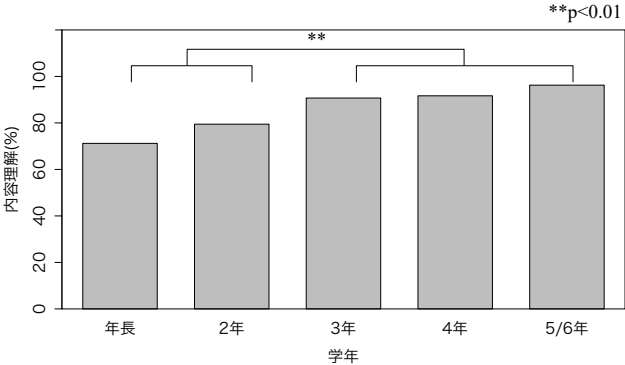
そして、先生に怒られて嫌な気持ちになりましたが、理由を話して。

それは、朝、おばあさんが石ころで転んで、足を怪我していて、重いものを持ってなくて、交番におばあさんを届けました。

そして、それを言ったら、先生は「席に座ってください」と言いました。

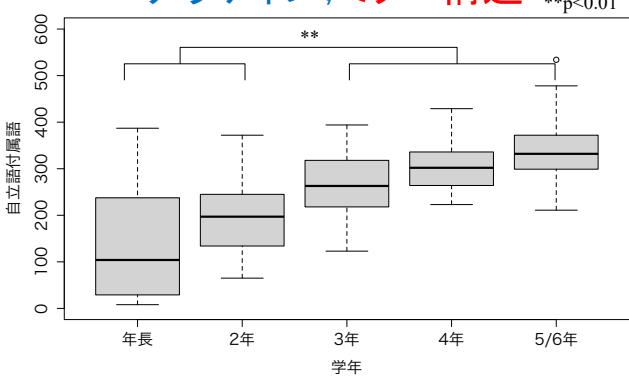
マクロ評価; 52.1% ミクロ(自立語付属語数)評価;74語

内容質問(23問); 図版A



年長時点で、既に71.2±15.8%と高く、物語図版の内容を高度に理解しており、3年時に90±6.6%と顕著に発達し(F(4,93)=18, p<0.01)、発達のプラトーに達した。

ナラティブ; ミクロ構造



年長から2年にかけては、143±122語、2年200±76.8語と変化に乏しく、3年時に256.5±74.4語と顕著に改善し(F(4,93)=15.2, p<0.01)、発達のプラトーに達した。

まとめ

- 1. 典型発達児のナラティブ産生について、内容理解とミクロ構造は、年長児と2年生児では、差がなく、3年生でプラトーに達した。
- 2. 一方、マクロ構造は、年長から順次発達し、同様に、3年生でプラトーに達した。
- 3. 本研究の物語絵図版によるナラティブ産生は、概ね年長幼児から学童3年生までの評価が可能と考えられた。
- 4. 典型発達児の月齢は、マクロ構造の発達と正の相関を認め、単回帰分析により、マクロ構造に基づいてナラティブ発達年齢として参照できることを確認した。
- 5. しかし、本研究で示した回帰式は、寄与率が低く(自由度調整済 R²=0.43)、小学1年生、中学生の対象児を得て、予測精度を高める必要がある。